

子供の未来を真剣に考えている

保護者の皆さん

かわいい子には スカウト・キャンプを！

ご存じですか？

子供の将来の課題について
ボーイスカウトの活動について



非認知能力をご存じですか？

「認知能力」はIQや試験の点数など

数値で認識できる能力です。

「非認知能力」は下の表をご覧ください。

今、非認知能力への認識が高まっています。

「非認知能力」への投資は、子供の成功にとって非常に重要である事が多くの研究で示されています。

非認知能力を鍛える手段として、高校生が高齢者にコンピューターの使い方を教えるという社会奉仕活動のように、教室で学んだことを地域社会で問題解決のために生かすような教育やアウトドア活動なども有効であると言われています。

「学力」の経済学 中室牧子著より

非認知能力とは何か

学術的な呼称	一般的な呼称
自己認識 (Self-perceptions)	自分に対する自信がある、やり抜く力がある
意欲 (Motivation)	やる気がある、意欲的である
忍耐力 (Perseverance)	忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概がある
自制心 (Self-control)	意志力が強い、精神力が強い、自制心がある
メタ認知ストラテジー (Metacognitive strategies)	理解度を把握する、自分の状況を把握する
社会的適正 (Social competencies)	リーダーシップがある、社会性がある
回復力と対処能力 (Resilience and coping)	すぐに立ち直る、うまく対応する
創造性 (Creativity)	創造性に富む、工夫する
性格的な特性 (Big5)	神経質、外交的、好奇心が強い、協調性がある、誠実

Q いったい、どんな風に
大学入試が変わるのでしょうか？

A 2020年、センター試験が廃止されます。
新しい2つの共通試験が生まれます。
各大学の試験も面接重視に変わります。

Q 人工知能（AI）は、私たちの生活を
どのように変えるのでしょうか？

A 人工知能やIoT、IOE、ロボットは
どのように進化するのか
15年後の暮らしを私たちは
想像することが困難な時代です

Q 東京直下・南海トラフ地震・異常気象による
災害はいつどこで起きるのでしょうか？

A 現在の科学ではまだ正確な予知ができません。
自分の身は自分で守らなければなりません。

「かわいい子にはスカウト・キャンプを」

目 次

はじめに -----	1
三つの「そなえよつねに」 将来の三つの課題 -----	2
• 教育改革について -----	2
• AI（人工知能）に伴う変化 -----	5
• 災害に対する備えについて -----	6
ボーイスカウトの活動について -----	7
三つの課題とスカウト活動 -----	10
まとめとして -----	12

はじめに

保護者の皆さんはボーイスカウトをご存じでしょうか。どのような活動をしているか見た事がありますか。興味をもった事はなかったでしょうか。自分の子どもには関係ないと思われたかもしれません。子どもさんのために、この機会に是非この冊子を読んでみてください。

東日本大震災の時、釜石では「釜石の奇跡」として学校管理下では小中学校の死者がでませんでした。これは発生するかもしれない地震や津波に対して、防災教育として避難訓練が行われていたからです。事前に予知できる事に対して、対策を取る事の大切さを学校教育の場で実証した例となりました。

予知できる事にいち早く取り組む事、教育、学習が将来に対する備えであり、私達大人が子どもにしてやれる最大の贈り物ではないでしょうか。

ボーイスカウトのモットーは「そなえよつねに」です。

この冊子では、三つの「そなえよつねに」についてお話し、将来子どもたちが体験するであろう事（すでに始まっている事）を検証し、それに対してスカウト活動を通じて将来の課題に備える事ができればと、願いを込めて作りました。

三つの「そなえよつねに」将来の三つの課題

現在子ども達をとりまく将来にわたり、伴っている課題について大きく分けて三つについて考えてみたいと思います。

一つ目は「2020年の大学入試改革に伴う教育改革」です。二つ目は「AIを始めとする第4次産業革命」です。三つ目は東日本大震災、熊本地震、そして予測されている「南海トラフ地震等の災害、そして温暖化による異常気象」による災害です。

これらの三つの課題は現在進行形でもう始まっています。

教育改革について

まず一つ目の教育改革の内容について見てみましょう。

現在2020年の大学入試改革を機に教育界も大きな教育改革の波がうねり始めています。産業界、教育界はグローバル化に対応するために大きく舵を切り始めました。

なぜグローバル化が大学入試に関係するのでしょうか。第一に日本の大学は世界のベスト100に東大と京大の2校しか入っておらず、文科省は10校を目標に目指すことが決まっています。これは産業界のグローバル化に伴いAIの開発や新たな製品開発に必要な人材の確保が必要になるためです。

そのために導入したのが「国際バカロレア International Baccalaureate」(IB)という教育プログラムです。これを推進するために教育現場では、すでにアクティブ・ラーニングという教育法が導入され始めています。今まで板書により先生が教える、「覚える教育」から生徒同士がお互いに考え、教え合う「考える教育」が始まっています。

(YouTube「教え合い」で見る事が出来ます。)

大学入試も決まった答えのない問題が出題され、感性と理論的に考えをまとめる能力が問われる事となります。

その対策として導入されたのが国際バカロレア (IB) で、内容は「グローバル化」と「知識基礎社会」に備えるために必要な

- | | |
|---------------------------|--------------|
| (1) Thinking Skill | 「考える力」 |
| (2) Social Skill | 「社会性」 |
| (3) Communication Skill | 「コミュニケーション力」 |
| (4) Self-management Skill | 「自己管理能力」 |
| (5) Research Skill | 「調べる力」 |

の五つの力を身につけるプログラムです。

そして、これらのスキルだけを育てるのではなく、それぞれの力がどのような態度や姿勢で発揮されるかがきちんと考えられていなければ、どんなに力を身につけていても意味はなく「人間の幸せに寄与しようとする態度や姿勢」が不可欠だとしています。

そのため次の十二の「態度」が常に正しく選択される事が求められています。

- ①感謝……………世界とそこに住む人々の素晴らしさに感謝
- ②責任……………学びに自律心と責任感を持って真剣に取り組む
- ③自信……………学習者としての自分の能力を信じ、難しいことに挑戦する勇気を持ち
学んだ事を活用して適切な判断と選択を行う
- ④協調……………協力し、協働し、状況に応じてリーダーやメンバーの役割を担う
- ⑤創造性……………問題や葛藤に対し、創造的に創意工夫をする
- ⑥好奇心……………学びそのものや、世界、人々、文化に対して好奇心を持つ
- ⑦共感……………自分を他の人の状況に置いてみる事により、人がなぜそのような感情を
持つに至ったのかを理解し、他者のものの見方に心を開き、振り返りを行う
- ⑧熱意……………学ぶ事を楽しみ、努力して取り組む
- ⑨自主性……………自分で考え行動する、きちんとした根拠に基づいて自分で判断し、
その判断の正しさを説明出来る
- ⑩誠実……………正直である事、深い思慮に基づく公正感を示す
- ⑪尊重……………自分、他の人、世界を尊重する
- ⑫寛容……………世の中の違いや多様性に対して気を付けて接し、他の人が必要とする
事に応える

以上「五つの力」と「基礎となる十二の態度」が国際バカロレアプログラムの概要です。
学校でも教科を教えるだけでなく、人間としての能力や態度を重視し「考える教育」の
取り組みが始まりました。それがアクティブ・ラーニングです。

(「アクティブ・ラーニングとしての国際バカロレア」より)

これらの取り組みをするのは、大学入試問題が答えのない問題が出されるためです。そ
れではどんな問題が出るのでしょうか。

- ①「知識は人間だけによって創られていくのであろうか。」

2015年度 慶応義塾大学 経済学部の小論文で出された問題

- ②「永遠に生きられれば人は幸せだろうか。」

2014年度 早稲田大学 政治経済学部の英語の問題の一部 英文出題

偏差値重視の入試制度から、多様な答えがある問題に取り組まなければならなくなりつ
つあります。

大学が変わるのは産業界の就職制度変更を前提にした取り組みでもあります。

それは終身雇用制度と年功序列が終わるからだといわれています。

20年以上前の1995年に経団連が出した【新時代の「日本的経営」＝挑戦すべき方向
とその具体策】は次の表のようになっています。

アメリカのような「ジョブ型」の雇用に代わる可能性が高いのです。

2020年の大学入試改革に合わせて、就職や雇用制度が徐々に変わっていく可能性があ
るのです。

大学入試センター試験と新試験の比較

年度	2019年度まで	20年度～23年度	24年度以降
名称	大学入試 センター試験	大学入試希望者学力評価テスト（仮称）	
対象	中3まで	中2～小5	小4以下
出題方式	マークシート選択式	マークシート選択式 + 短文記述式（国語、数学）	コンピューターを使った 選択式や記述式を検討
英語の出題	マークシート式 + リスニング	「書く」「話す」テストで 外部の民間試験活用を検討	将来的に外部の民間試験に 移行することを検討
実施回数・時期	年1回・1月	「選択式」と「記述式」を同時に実施し 記述式の採点を大学が担う案を検討	
		年1回	年複数回実施の可能性を 検討
成績	1点刻み	記述式は段階別評価の方法	

文部科学省の資料などをもとに作成

グループ別にみた処遇の主な内容

	長期蓄積能力活用型 グループ	高度専門能力活用型 グループ	雇用柔軟型 グループ
雇用形態	期間の定めのない 雇用契約	有期雇用契約	有期雇用契約
対象	管理職・総合職 技能部門の基幹職	専門部門 （企画、営業、研究開発等）	一般職 技能部門 販売部門
賃金	月給制か年棒制 職能給 昇給制度	年棒制 業績給 昇給なし	時間給制 職務給 昇給なし
賞与	定率 + 業績スライド	成果配分	定率
退職金年金	ポイント制	なし	なし
昇進昇格	役職昇進 職務資格 昇進	業績評価	上位職務へ転換
福祉施策	生涯総合施策	生活援護施策	生活援護施策

出典：「新時代の『日本の経営』」（日本経営者団体連盟、1995年）

AI（人工知能）に伴う変化

二つ目はAI（人工知能）を始めとする第4次産業革命です。

コンピューターと囲碁の試合が話題になりました。囲碁のチャンピオンとコンピューターが対戦して4対1でコンピューターが勝利しました。

これは「ディープラーニング」という「パターン認識」能力を飛躍的に高めることができた結果だといわれています。

ドイツのインダストリアル4.0を受け日本でも2015年を「第4次産業革命」元年としての取り組みが始まっています。

自動運転できる自動車の開発は皆さんもニュースで見ていると思います。家電とインターネットをつないだ商品の開発や、建築機械とインターネットの連携等IoTとして製品化され始めています。私達が知らないうちに、どんどん開発が進んでいます。

こうした進化によって、人工知能は人間の仕事を次々と奪い取っていくのではないかと心配する声が増し強くなっています。

2014年英国デロイト社は、英国の仕事のうち35%が、今後20年間でロボットに置き換えられる可能性があるという報告を発表しています。さらに、オックスフォード大学の研究報告では今後10~20年ほどでIT化の影響で702の職業のうち約半分が失われる可能性があるという述べています。また現在人気の職業が一番危ないともいわれています。

現在小学生の子ども達は、このような状態の時に就職することになるのです。もちろん新しい職業が出来ている事と思います。それほど心配する必要が無いのかもしれませんが。

しかし、パソコンに出来ない創造する事、思いやる事、手作業で作る事等、人間本来の特色を鍛え育てる事が重要になってくると考えます。

AIについては専門的な項目が多すぎて私の知識では到底追いつきませんが、そのような流れにある事だけをお伝えしたいと思います。

災害に対する備えについて

三つ目は災害に対する備えです。

私たちは東日本大震災を経験しました。一瞬にして多くの人命と財産を奪い取っていった津波の恐ろしさは筆舌に尽くしがたいものがあります。

最近では熊本地震で多くの人命と財産が失われました。異常気象による崖崩れや、河川の氾濫で堤防が決壊し多くの犠牲が出ています。

これらの出来事は、他の人にとっては他人事です。いくらニュースで見ても自分の事としてとらえる事ができません。これは釜石でも被災した人、被災しなかった人でも同じようなとらえ方になっています。これらの災害を自分の事としてどうとらえるかが大切です。

それには小さい時から自然に親しみ、自然の中で感性を磨く必要があります。

私は地震の揺れが来る前に山が鳴るのが聞こえます。揺れる前に地震が来る音が聞こえます。都会では無理でしょうが、自然の多い所で暮らしていると雑音が少なく聞こえます。

便利な生活に慣れ人間も動物である事を忘れていきます。何が危険なのか体験が少なくなっています。野外生活の体験を通じて危険予知能力を高める必要があると思います。

また震災後、安否確認をしている時にスカウトのお母さんから「息子がガスも電気も止まっているのに、ご飯を炊いてくれました。スカウトに入れていて良かったです。」と教えてくれました。どのような状況でも、あるもので工夫し考えて対応する事は、日頃の経験と訓練が必要です。

災害はいつ、どこで、どのように我が身に降りかかるか分かりません。自分の身は自分で守り、更に余力を持って他の人を援助する心がけが大切です。

南海トラフ地震と津波が想定されています。異常気象による災害はどこで起きるか分かりません。子ども達だけではなく、大人も含めて常日頃からの心構えと備えが大切です。

ボーイスカウトの活動について

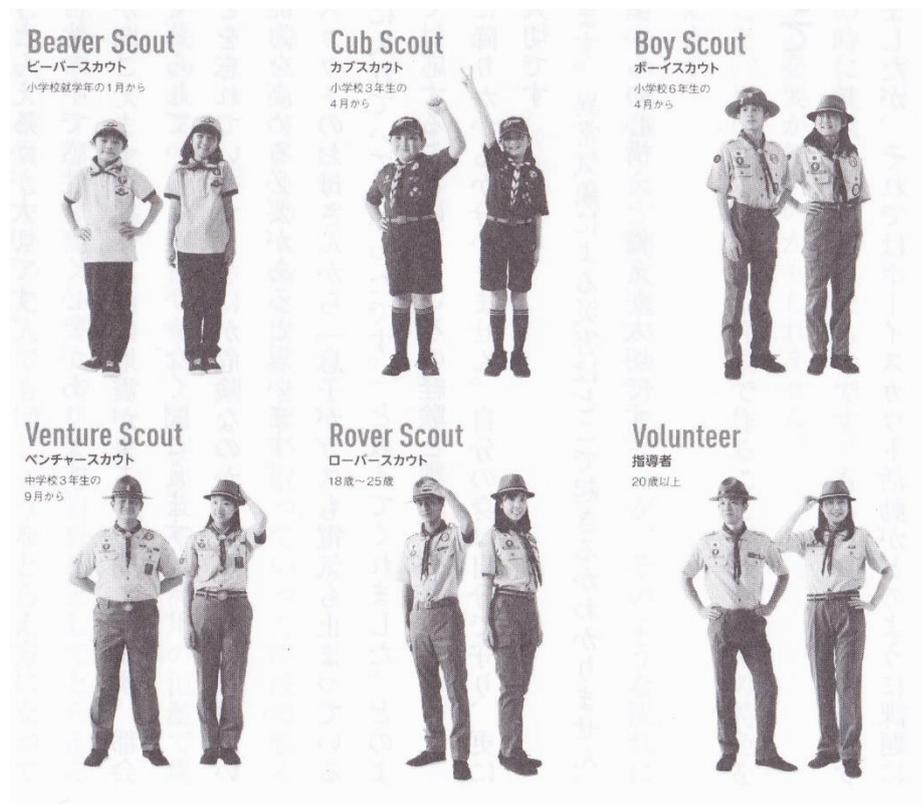
以上、三つの想定される課題を書いてきましたが、それではボーイスカウト活動がどのように課題に対応できるのでしょうか。

最初にボーイスカウトとっていますが、学年による名称の違いがあります。

小学1・2年生をビーバースカウト、3年生から5年生をカブスカウト、6年生から中学3年生までがボーイスカウトです。高校生はベンチャースカウトとなり、大学生はローバースカウトと呼びます。スカウト活動は小学1年生から大学生まで年齢に合った活動をそれぞれしますが、同じ組織の中で年齢の違う子供たちが交流しながら活動します。

団行事の時は小学1年生から大学生それに指導者である大人まで一緒に活動しています。

学年やクラス内だけの横の繋がりではなく、縦の繋がりを持ちながらコミュニケーションを図っています。



次にスカウト活動の目的を見てみましょう。日本連盟規約の目的には「本連盟はボーイスカウトの組織を通じ、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕出来る能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践で出来るよう教育する事をもって、教育の目的とする」となっております。

最初に出てきた「国際バカロレア」の内容と似ていたと思いませんか。

この目的を達成するために、スカウト活動であるための 7 つの要素があります。それを一つずつ説明します。

1 「ちかい」と「おきて」の実践。

ビーバースカウトは「きまり」、カブスカウトは「さだめ」ボーイスカウトになって初めて「ちかい」をたて「おきて」を守る活動を行います。活動の中で約束を守ること、仲間との友情の大切さ、故郷や保護者への感謝、勇気をもってチャレンジする等を体得します。

2 班（組）で活動します。

班の中で役割を決め、仕事の分担をしながら、先輩が後輩に指導し教え合います。まさに IB のアクティブ・ラーニングの実践を行ってきました。班内の問題解決は、班長を中心に自分達で考える活動です。リーダーシップ力やコミュニケーション能力、自分の役割を果たす事を実践します。

3 個人の進歩と評価 進級制度・技能章等のチャレンジ章が多くあります。

基本的に絶対評価で行い、個々に挑戦し進級や技能章を取得します。目標を立てチャレンジする事、興味のある様々な章を取る事で個性を伸ばし、達成感と自信を獲得していきます。

4 野外活動を重点にしています。

ハイキング、キャンプを通じ自然の素晴らしさと偉大さを体得します。自然の中で活動することで感性が磨かれます。自然の中の不便な生活の中で創意工夫をすることで、考える力を育てるキャンプができます。

5 行うことにより学びます。

自分で体験し、やって見て覚えます。刃物の使い方、ロープワーク等キャンプに必要なスキルを体験して覚えます。その事がひいては災害や仕事の場面で役立ってきます。

6 シンボルの活用。

ボーイスカウトは同じサインやマークを使い、世界 162 の国と地域が参加し、3,600 万人が活動しています。一番グローバル化された組織と言えます。海外派遣のチャンスも多くあり、外国のスカウトとの交流も盛んに行っています。

7 成人の支援。

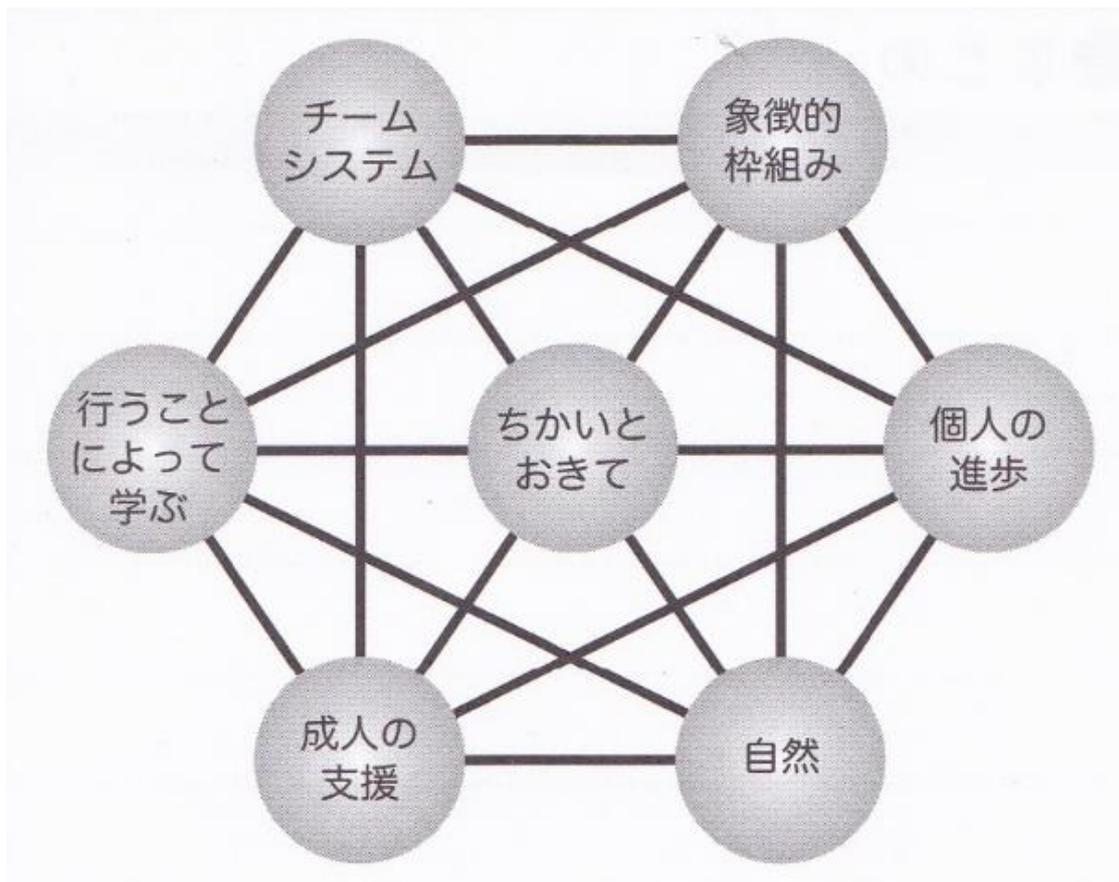
この活動は大人のボランティアによって支えられています。年齢性別を問わず、誰でも参加する事が出来ます。

以上の7つの項目を兼ね備えていれば、ボーイスカウト活動ができます。

具体的には野外活動に必要なスキルを修得しながら活動が進められますが、それぞれの年齢に合った活動を展開していきます。

また冬はスキー、夏は海のスポーツ等、ハイキングやキャンプ以外にもスポーツを取り入れた活動を行っているのが、ボーイスカウトです。

それでは、これらの活動がどのように前段の三つの課題に対処しているかを検証しましょう。



三つの課題とスカウト活動

第1の課題、2020年大学入試改革についてですが、学習内容（知の理論 TOK）、アクティブ・ラーニングは学校にお任せしますが、お気づきのとおり「IB」の「十二の態度」は、まさにスカウトの「おきて」の実践に繋がります。普段からこれらの態度の実践をしておく事が、学校教育を受けるうえで有効になると思います。これからは「覚える勉強」から「考える勉強」に変わっていくでしょう。スカウトのキャンプはテントで寝るだけでなく、いかに安全に快適に生活が出来るかを考えるキャンプなのです。自分が修得したキャンプスキルをどこでどのように使うか、自然の変化の中で考え実践する活動なのです。

学校でアクティブ・ラーニングが始まってでも抵抗なく学習する事が出来ると思います。

また就職活動で一番重要視されている項目は何かお判りでしょうか。1番はコミュニケーション能力です。「日経連『新卒者採用（2015年4月入社対象）アンケート結果』」2番目が主体性、3番目がチャレンジ精神、協調性、誠実性、責任感と続きます。

学校生活の横の繋がりではなく、小学1年生から私達大人まで色々な年代の関わり合いがコミュニケーション能力を育てます。色々な体験やアクティブな活動にチャレンジする事で、主体性、チャレンジ精神がゲーム感覚で遊びながら身についていくのがスカウト活動です。前段で示した「非認知能力」の育成に大きな効果が期待されます。

第2の課題、AI（人工知能）についてですが、現在どこの国においても莫大な予算をかけて研究が進められています。どんどん商品化されてくると思います。

詳しいことは専門外ですので、ここで人工知能に対比して人間の能力「8つのインテリジェンス」について見てみましょう。

ハーバード大学ハワード・ガードナー博士の研究により人間には7種類もしくは8種類の能力がある多面的能力理論が出されました。それは、①言語能力 ②空間認識能力 ③音感能力 ④身体感覚能力 ⑤論理数学能力 ⑥人間関係形成能力 ⑦自己観察能力 の7つです。最近は⑧博物学能力 が加えられ8つの能力があるとされています。人工知能は人間がプログラムしたのですが、8つの能力は人間が持って生まれたものです。自分の能力を知ることは、将来職業を選択する場合でも自分の能力の秀でた部分を把握し伸ばしていくうえで大切な事です。誰もが持っている能力ですが、人はそれぞれ生まれながらの得意分野やその後の訓練によりそれぞれ違いが出てきます。それが個性となります。

東北大学加齢医学研究所の瀧 靖之教授の研究では③視覚や聴覚は0歳から ④身体能力は3～5歳 ①言語能力は8～10歳 ⑥コミュニケーション能力は10歳～思春期と成長過程に合わせて発達してくるといいます。年齢に合った活動や訓練をする事が、能力開発に有効な事が判ります。昔から習い事を始める年齢を「3歳、6歳、12歳」と言われてきた事と符合します。それぞれの年齢に合った活動は子ども達の能力開発に効果が期待出来ます。

スカウト活動は野外スキルを学ぶと共に多くの技能章があります。自分の得意な事、興味をもった事に色々チャレンジし、自分の能力で何が得意なのかを探る活動は将来の大学進学の進路決定や、ひいては就職に役立つものと思います。

人工知能では出来ないコミュニケーション能力、内省能力、イメージ能力…等を自分の能力を自覚したうえで、育て能力アップしていく事が、人工知能の世の中に対応する準備ではないかと考えます。人工知能には「仁」という概念はないそうです。ロボットは他の人をおもんばかりの事は出来ません。まさに「仁義なき戦い」になる恐れがあります。

「思いやり」や「感謝の心」、「友を思う心」が大切になってくると思います。

スカウト活動を通じて、能力開発と同時に自然の中での活動を通じて感性豊かな心を育てたいと思います。

最後に第3の課題、災害に対する備えですが、これは心構えの問題と避難する決断をする事、そして備えの三つの準備が必要だと思います。

一つは災害が来るかもしれないという心構えです。今、三陸では5年前の経験が脳裏にありますから、地震に対しても敏感になっていますが、他の土地に行った場合、今の感覚でいられるでしょうか。大雨や竜巻等に対しても、もしもの事を想定し、自分の居場所の地理的状況の把握が出来ているか、日頃から訓練しておく必要があります。

また避難するかどうかの状況判断は難しいところです。判断を間違えれば命に関わります。常日頃自分で考え判断する事の訓練が大切です。

最後にサバイバル的なスキルの修得や臨機応変の対処能力を普段の訓練で身につけておく必要があります。キャンプスキルをいかに応用出来るか経験を重ねるしかありません。

まず自分で自分の身を守ったうえで、他人の支援が出来るように、スカウト活動を通じて修得してほしいと思います。

災害は忘れた頃にやってきます。私達は自然の中で暮らしています。いくら科学が進歩しても自然をコントロールする事は出来ません。私達が自然に対応するしかないのです。「そなえよつねに」を心がけて防災に努めましょう。

まとめとして

これから子ども達をとりまく環境の変化について、ボーイスカウト活動の概要について書いてみましたが、ご理解いただけましたでしょうか。

未来の事は推測でしかありませんが、教育改革や AI の発達による社会の変化はもう始まっています。

日本では「非認知能力」についての評価が、まだ低い状態といわれています。欧米諸国では科学的なデータによる研究が進み認識も高まっております。教育の過程や就職してからも、一生この能力は必要です。特に「自制心」や「やり抜く力」「コミュニケーション力」は人生に大きく関わってきます。

人間は8つの能力を持って生まれてきますが、一人一人八角形の形には違いがあります。低学年のうちには特に色々な事を経験させ、好きな事、やりたい事を見つける期間だと思えます。

未来がどんな状況になっても、自分の能力、技術により人生を切り開けるようになってほしいと願っています。

未来を担う子ども達が、夢と希望に満ちた人生を送れるように、気がついた大人が行動を起こす時ではないでしょうか。

保護者の皆さん、「かわいい子にはスカウト・キャンプを！」是非スカウト活動させてみませんか。仲間が増えると子ども達に色々な経験をさせる事が出来ます。子ども達が一人一人違う能力を発揮し「非認知能力」を鍛え、明るい未来を創造出来るように一緒に活動しましょう。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

平成 28 年 12 月 10 日
ボーイスカウト釜石第 2 団
団委員長 奥 田 耕 一
連絡先 090-8925-8247

【参考文献】

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 「2020年激変する大学受験」 | 西川 純 著 |
| 「2020年の大学入試問題」 | 石川 一郎 著 |
| 「アクティブ・ラーニングとしての国際バカロレア」 | 大迫 弘和 著 |
| 「人工知能は人間を超えるか」 | 松尾 豊 著 |
| 「AIの衝撃」人工知能は人類の敵か | 小林 雅一 著 |
| 「人工知能」の今と未来の話 | 本田 幸夫 著 |
| 「7つの超能力」 | トーマス・アームストロング 著 |
| 「コリン・ローズの加速学習法」 | コリン・ローズ 著 |
| 「賢い子に育てる究極のコツ」 | 瀧 靖之 著 |
| 「学力」の経済学 | 中室 牧子 著 |



— ちかい —

私は、名誉にかけて次の三条の実行を誓います

- 一． 神（仏）と国とに誠を尽くし、おきてを守ります
- 一． いつも他の人々を助けます
- 一． からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います

— おきて —

1. スカウトは誠実である
2. スカウトは友情にあつい
3. スカウトは礼儀正しい
4. スカウトは親切である
5. スカウトは快活である
6. スカウトは質素である
7. スカウトは勇敢である
8. スカウトは感謝の心をもつ